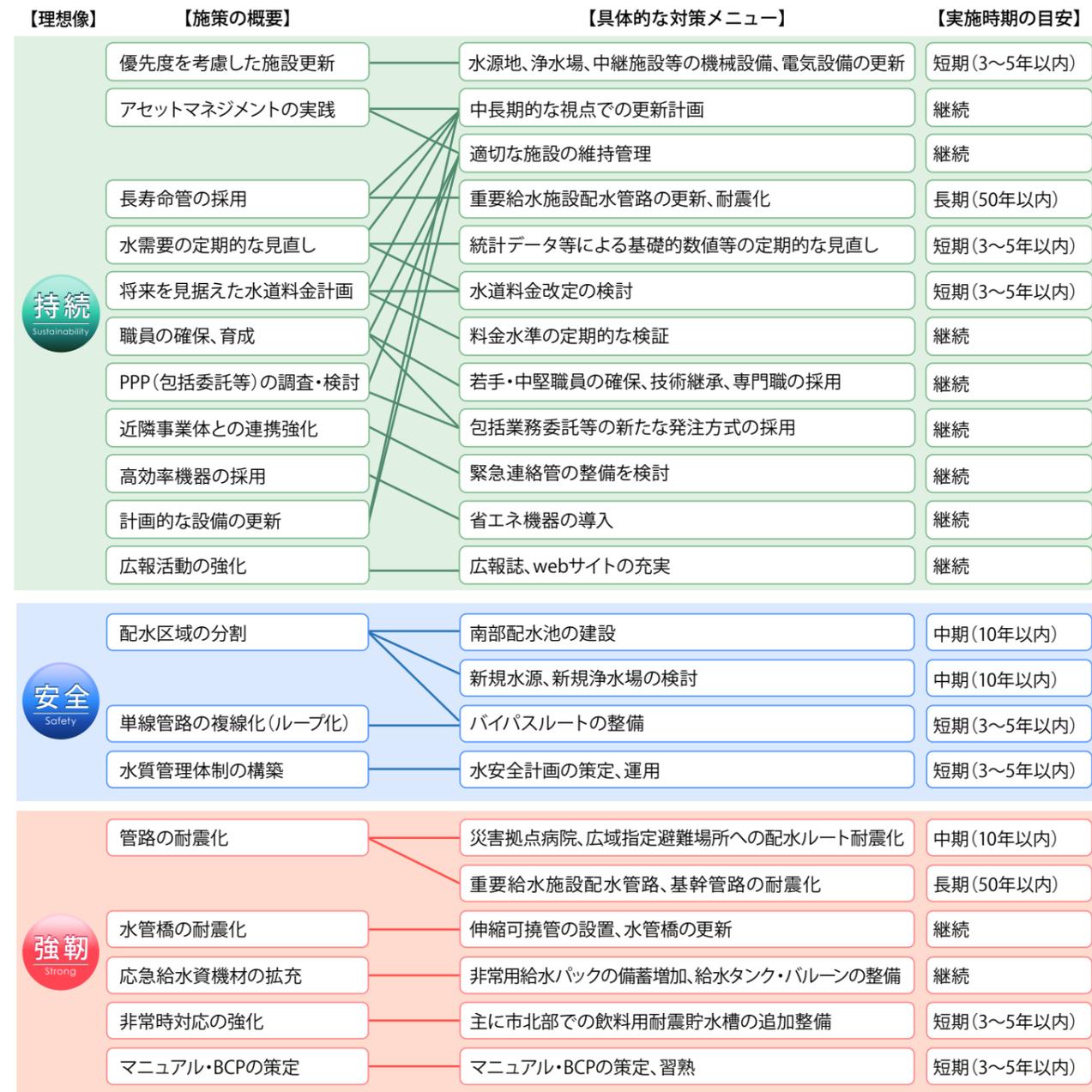


施策体系図

小松島市水道事業の理想像を実現するための施策を体系的にまとめると、以下のように整理できます。各対策メニューは、現在から継続して行うものや、3～5年以内の短期、10年以内の中期、50年以内の長期に行うものに分けられ、計画的に実施していきます。



フォローアップ

今回策定した計画は、進捗状況に応じたフォローアップを行い、社会環境の変化に合わせて対応できるよう、適宜見直しを図ります。

事業実施後には、右図に示すようなPDCAサイクルで実施効果を分析し、約5年に1度フォローアップし、各計画の見直しを実施します。



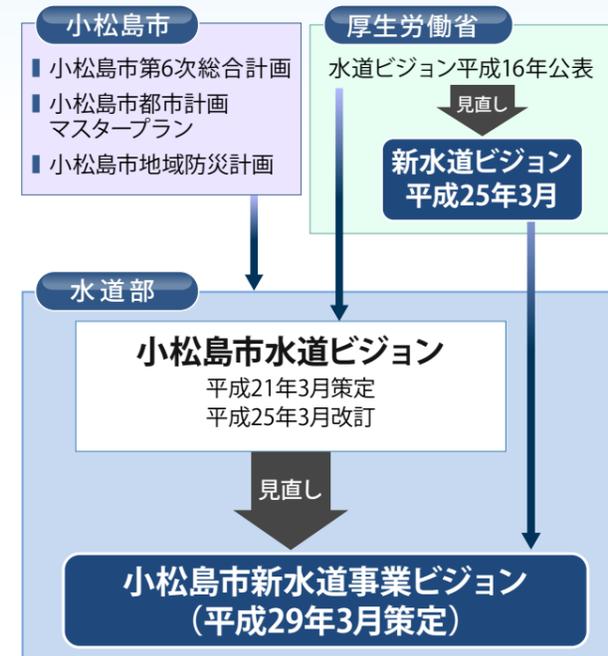
小松島市 新水道事業ビジョン

Komatsushima City New Waterworks Vision

小松島市新水道事業ビジョンは、本市水道事業の基本となる計画です。基本理念を「未来につなぐ、宝の水」とし、国の新水道ビジョンに掲げられる「持続・安全・強靱」をコンセプトに、基本方針や実現方策について定めています。

小松島市新水道事業ビジョンの位置付け

小松島市新水道事業ビジョンは、小松島市第6次総合計画等の上位計画に基づき、本市水道事業の今後の方向性を示す計画となります。計画期間は平成29年度から平成38年度までの10年間としています。



計画期間
平成29年度～平成38年度(10年間)

小松島市水道事業の将来像

小松島市水道事業経営等審議会の提言を踏まえ、小松島市水道事業の基本理念および理想像を以下のように設定しました。

【基本理念】

未来につなぐ、宝の水

【理想像】

持続
Sustainability
いつまでも、みなさまに宝の水をお届けできる水道

安全
Safety
いつでも安心して宝の水を飲める、安全で信頼される水道

強靱
Strong
災害に強く、しなやかな水道

お問い合わせ

小松島市水道課
tel 0885-32-6188
〒773-0012 小松島市田浦町字中西 103

水道事業の課題

持続

Sustainability

水需要の減少

将来的に、給水人口の減少傾向が続き、それに伴って給水量も減少する見通しとなっています。給水量の減少は、今後の料金収入や施設規模に大きく影響するものです。

財源の確保

今後、給水収益は減少する見込みですが、管路更新や施設整備に関する事業量は確実に増加していくため、財政基盤の強化が必要です。

組織体制の維持

今後10年以内に技術職員の3分の1が定年を迎えることや職員の高齢化など、技術・経験の継承・蓄積が課題となっています。

貯留容量の確保

田浦配水池や緊急貯水槽等による水道水の貯留容量が、同規模事業体の平均を大きく下回り、給水安全性、危機対応性が低い状況にあります。

バックアップ機能の確保

本市の水道施設は、浄水場と配水池がそれぞれ1施設で構成されるため、事故や災害が発生した際には市内全域の断水に直結するリスクを抱えています。

応急給水体制の充実

現在、市内の応急給水拠点は4箇所のみと少なく、非常時の応急給水体制が十分でない可能性があります。

管路の耐用年数の経過

口径の大小にかかわらず、管路の経年化が進行しつつあり、漏水等の管路事故のリスクが高まっています。

小規模施設の管理

田浦浄水場、田浦配水池の他に、市内数カ所に点在する中継ポンプ場等の小規模施設について、いずれも老朽化が進み、適切な更新等が必要です。

安全

Safety

施設の耐震化

田浦配水池は接続する管路が耐震管ではなく、また、地震等の歪みを吸収する伸縮可とう管が設置されていないため、地震時に市内全域が断水する可能性があります。

管路の耐震化

南海トラフ巨大地震発生時に、給水区域のほぼ全域で液状化が発生すると想定されていますが、現在布設されている管路の多くは耐震化されていない状況です。

津波・浸水対策

市内の水管橋で耐震化が必要と判定されたものについて、一部補強や更新が完了していますが、引き続き対策が必要です。

強靱

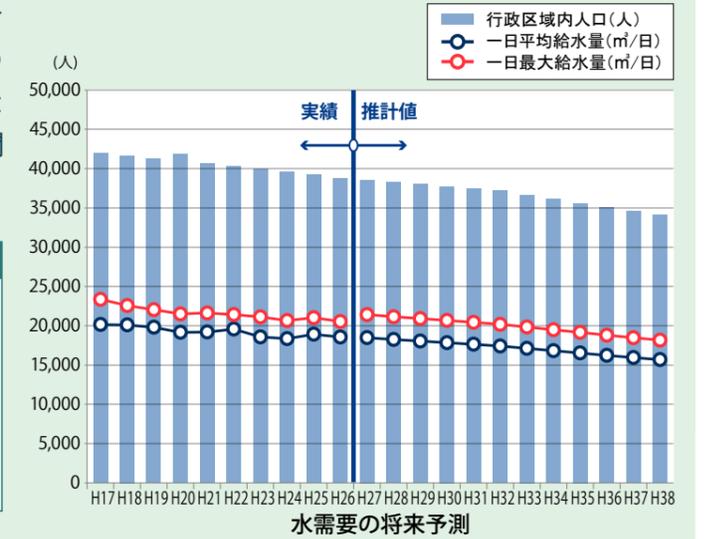
Strong

課題に対する方策

「持続=いつまでもみなさまに宝の水をお届けできる水道」は、人口減少に代表される環境の変化に対しても、質の良い水道水をいつまでもみなさまにお届けできるよう、今後の水道事業を展開していきます。主な方策は次のとおりです。

方策

- 老朽化した水道施設の計画的な更新
- 水需要予測の定期的な見直し
- 水道料金改定の検討
- 職員の育成・確保
- PPP(包括委託等)の検討
- 市民との連携・コミュニケーションの促進 等



「安全=いつでも安心して宝の水を飲む、安全で信頼される水道」は、長い年月をかけて築き上げた安全な水道を守り、さらなる向上を目指す取組です。水源から蛇口まで、きめ細やかな管理が可能となる体制を構築します。主な方策は次のとおりです。

方策

- 新配水池の整備による配水区域の分割と貯留容量の増強
- 単線管路の複線化によるバックアップシステムの構築
- 適切な水質管理体制の構築に向けた水安全計画の策定 等



配水区域の分割イメージ

「強靱=災害に強く、しなやかな水道」は、今までに経験したことのない事故、自然災害等への備えを確かなものとします。通常時における供給安定性の確保を当面(10~20年後まで)の目標とし、最終的には震災時における供給の安定性の向上・確保を目指します。主な方策は次のとおりです。

方策

- 優先順位をつけた重要管路の耐震化
- 津波浸水対策強化としての水管橋の耐震化
- 飲料用耐震貯水槽の追加整備
- 非常時対応のためのマニュアル・BCPの策定 等



水管橋設置の様子